



南牧小・学校評価だより

南牧村立南牧小学校
No.1 令和5年7月実施

令和5年度第1回の学校評価アンケートの集計ができましたのでお知らせいたします。
学校では、アンケートの結果から改善策を考え取り組んでまいります。今後もご支援、ご協力をお願いいたします。

評価の観点	評価項目	方 策	具体的数値目標	評価のための設問	A・Bと回答した割合 80%以上が【A】 50%以上が【B】 50%未満が【C】			
					保護者	児童	学校	改善策
確かな学力の向上	1 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善	児童の探究意欲を喚起する「めあて」の設定、児童同士の対話を中心とした思考を深める「授業展開」、自らの主体的な家庭学習につなげる「まとめ」と「振り返り」を日常化し、課題解決的・体験的な学習活動に努める。	保護者と児童、学校の80%以上が、授業が分かると答えている。 学校の80%以上が、「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 授業の内容が分かっていますか。 学校は「基礎基本」「学習習慣の定着」を基盤とした「主体的」な学習活動をしていますか。	A	A	A	少人数により、授業中は教員のきめ細やかな指導が可能なので、まとめや振り返りを効果的に活用して学習の個性化を図り、児童自らが学習に取り組めるようにする。また、基礎基本が確実に定着するように、前の学年に戻るなどの指導の個別化を図る。
	2 学習における個別最適化の実現	児童の個性や能力に配慮し、授業中の個別指導を充実させ、学力向上に繋げる。	保護者と児童、学校の80%以上が、個別最適な学びと協働的な学びが充実していると答えている。	(お子さん、あなたは) 自分から進んで学習に取り組んだり、友達と協力して学習を進めたりしていますか。	A	C		児童が主体となって進んで学習したいと思えるように、めあてを児童とともに設定したり、児童同士で解決したり、実際に児童にやらせてみたりするなど授業展開を工夫する。
		I C Tの有効活用により、個別最適な学びと協働的な学びを充実させた授業改善に取り組む。	保護者と児童、学校の80%以上が、個別最適な学びと協働的な学びを意識して授業を行っていますか。	学校は、個別最適な学びと協働的な学びを意識して授業を行っていますか。			A	引き続き、一人一人に応じた課題の出し方や効果的な対話の場面を考えながら授業をする。1人学級では、他学年や他の学校との連携を図る。
3 外国語教育に特化した授業計画の実践	英語のコミュニケーション能力をより高めるために、ALTとのやりとりや英検を積極的に活用する。	保護者と児童、学校の80%以上が、ALTや英検を活用して、英語でコミュニケーション能力を高めていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 外国語の先生と話をすることができていますか。	B	B	A	引き続き、授業の場面だけでなく休み時間や行事などALTと関わる機会をもつ。	
豊かな人間性の育成	4 互いに認め合い、郷土を愛する心の育成	児童一人一人が尊重され、自己存在感や自己有用感を実感できる意図的な活動をすすめ、思いやりや協調性を育み、互いに認め合う温かな集団づくりに取り組むとともに、郷土に誇りと愛着を抱く心の教育を推進する。	保護者と児童、学校の80%以上が、互いに認め合いながら、自己存在感や自己有用感を持って学校生活を送っていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 相手の気持ちを考え、自分や相手を大切にしながら過ごしていますか。	A	B	A	学習や活動において、対話する機会を増やし、自他を意識させ、互いを高め合いながら協力して活動していけるような取組をする。
	5 社会性の育成	各種学校行事や地域、関係団体との交流等を通して、価値ある体験活動を推進し、自律心や創造力、協調性等の社会性の育成を図る。	保護者と児童、学校の80%以上が、学校行事等において、地域や関係団体との交流を通して、児童の社会性を育成することができていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 地域の方と進んで話をしたり活動したりしていますか。	B	B	A	各教科において、講師として地域人材を活用したり、地域に根差した内容を各教科と関連付けた授業を計画したりする。
	6 学校図書館等の利活用	読書の励行や学校図書館の利用など、児童が進んで読書に取り組める環境を整え、読書に親しむ習慣づくりに努める。	保護者と児童、学校の80%以上が、児童が読書に進んで取り組んでいると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 読書に進んで取り組んでいますか。	B	A	B	授業での図書館の積極的な活用や、家庭において保護者と児童と一緒に読書に取り組めるような活動を取り入れていく。
	7 各種教育と関連させた道徳の実践	道徳の時間を「要」とし、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を横断的に関連付け、全校態勢で教育活動全体を通して心に響く道徳教育を推進する。	学校の80%が、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を推進していると答えている。	学校は、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を心がけていますか。			A	引き続き、道徳の時間と各教科領域、豊かな体験活動を関連付け、心に響く道徳教育を心がけ充実させていく。
	8 キャリア教育全体計画に基づいた指導の充実	キャリア教育全体計画に基づき、組織的・系統的に望ましい勤労観や職業観の育成に努め、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲を育てる。	保護者と児童、学校の80%以上が、キャリアパスポート等を活用し、自ら未来を切り開き社会に貢献しようとする態度や意欲を育てていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は) 学習したことを生活に生かしていますか。	A	B	A	学校行事や学級活動などにおいて、事前事後指導を充実させ、充実感や自己有用感をしっかり味わわせ、次の活動への意欲を高めるとともに、既習事項を生かした授業を立案実施していく。
健やかな体づくり	9 主体的で健康的な生活習慣の定着	(新型コロナ対応のための新しい生活習慣を徹底し)児童が自ら主体的に健康的な生活を送ることができるよう指導していく。また、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させる。	保護者と児童の80%以上が、食事や睡眠時間に留意して、健康的な生活を送っていると答えている。 学校の80%以上が、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていると答えている。	(お子さん、あなたは) 食事や睡眠時間に気を付けて、健康的な生活を送っていますか。 学校は、学校医、学校歯科医、栄養士、保健師等との連携を密にして、保健・健康教育を充実させていますか。	A	B	A	学級活動の授業や給食の時間等で、健康や食について考えたり、自分の生活を振り返ったりすることで、日々規則正しい生活を送れるよう意識付けを図る。
	10 体力・精神力の向上	効果的な少人数指導を探り、学年の枠を取り払った体育科授業の充実を図るとともに、計画的・系統的な実践を通して体力・精神力の向上、運動に親しむ態度の育成を目指す。 体力向上プランの組織的な取組に努める。	保護者と児童、学校の80%以上が、児童は運動(体育の学習を含む)や地域のスポーツ活動などに進んで取り組んでいると答えている。 学校の80%が、体力向上プランの組織的な取組により、児童が運動に親しんでいると答えている。	(お子さん、あなたは) 学校や家庭、地域で、積極的に運動に取り組んでいますか。 学校は、体力向上プランの組織的な取組により、児童を運動に親しませていますか。	A	B	A	授業のねらいを達成するために、自分の目標をしっかりと立て、スモールステップで着実に目標に近づけるような授業を展開する。学年関係なく児童同士が楽しく体を動かしながら外遊びや中遊びができるような活動を増やしていく。

組織的で活力ある学校づくり	11	健康で、協調性と向上心のある職場作り	互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努める。	学校の80%以上が、互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めると答えている。	学校職員は、互いの特性を認め、学び合い、高め合うことのできる教職員集団づくりに努めていますか。	/	/	A	小さなことでもお互いに相談し合う習慣をつくり、気軽に話したり聞いたりできる職場環境を整えることで、教職員間の意思疎通や意見調整を図り、協働体制を進めていく。
			業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、全職員のワークライフバランスを考えた働き方改革を推進する。	学校の80%以上が、業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していると答えている。	学校職員は、業務の改善や効率化、行事精選等の視点から校務を見直し、ワークライフバランスを考えた働き方改革を推進していますか。	/	/	A	業務の目的や教育的効果といった視点から校務を見直すことで、教育の質の維持・向上に努める。校務の役割分担は負担の均一化に努め、チームで担当することによって効率化を図る。
	12	規律ある職場作り	服務規律の確保を徹底する。	学校の80%以上が、服務規律の確保を徹底していると答えている。	学校職員は、服務規律の確保を徹底していますか。	/	/	A	毎月実施している服務規律に関する研修を更に充実させることで、コンプライアンス意識の向上と不祥事を根絶する職場風土をつくる。
安全で安心な学校づくり	13	安全管理の徹底と防災教育の充実	学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努める。	保護者と児童、学校の80%以上が、学校安全マニュアルの共通理解により、危機管理の徹底に努めると答えている。	校舎の中や校庭、通学路は安全だと思いますか。	A	A	A	校舎内や校庭については、毎月行なっている点検を引き続き丁寧に行うことで安全管理に努める。通学路については、危険となる場所の有無の現地確認、把握を行い、職員・保護者・児童へ周知徹底に努め、安全を確保する。
			学校施設整備や通学路の安全点検を徹底し、問題点への迅速な対応に努める。						
			常に危機意識をもちながら安全教育を充実させ、より実践的な避難訓練を継続して、児童とともに教職員も自己危機回避能力、自己安全管理能力のさらなる向上を目指す。	保護者・児童、学校の80%以上が、避難訓練等により、自己の危機回避能力、自己安全管理能力を高めていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は)登下校時や学校生活で、安全に過ごすために気を付けていますか。	A	A	A	学校生活についての安全教育や、実践的な避難訓練を引き続き行うことで、安全についての知識を深めていく。
地域とともにある信頼される学校づくり	14	地域に貢献する活動	地域行事への積極的な参加、ボランティア活動等を通して総合的な学習の時間を充実させながら、地域の自然・歴史・文化への関心と誇りをもたせ、将来までつながる郷土愛を育む。	保護者・児童、学校の80%以上が、学校と地域とが協力することで、南牧村に関心を持ち、郷土愛が育まれていると答えている。	(お子さん、あなた、児童は)生活科や総合的な学習の時間で学習したことから、南牧村のことを知ることはできましたか。	A	B	A	地域学校協働活動推進員との連携を深め、総合的な学習や生活科の活動の中で、南牧のよさを子どもたちが主体的に活動できるような探究の場を設定することで、地元に対する理解と郷土愛を高めていく。
			1年後の義務教育学校設立に向けて、学校運営協議会との連携をより強化し、学校・家庭・地域間の協働態勢を確立するとともに、職員や児童の小中学校間連携を一層推進し、義務教育9年間を見据えた一貫性のある教育課程の在り方を具現化する。	学校の80%以上が、義務教育学校設立に向けて、学校運営協議会との連携をより強化するとともに、職員や児童の小中学校間連携を進めていると答えている。	学校は、義務教育学校設立に向けて、学校運営協議会との連携や、職員や児童の小中学校間連携を進めていますか。				
	15	地域とともに作る学校教育	学校Webページや各種通信等により、積極的な情報発信に努める。	保護者・児童、学校の80%以上が、学校はWebページや各種通信等により、積極的な情報発信に努めていると答えている。	あなたは、学校からのおたよりを家の人に見せていますか。 ホームページやおたよりには、学校のことが分かりやすく書かれていますか。	/	A	/	ホームページや学校だより、学年通信などの掲載内容を、様々な視点から確認することで、引き続きよりよいものを提供していく。